

株式会社進プレ

にかほ市象潟町関字西大坂1-54

最新型のベンダー加工機の導入により、航空機用ギャレー部品の生産性向上を実現

【事業計画名】 新型設備による生産性向上(航空機部品)



導入したプレスブレーキ(ベンダー加工機)



曲げ加工を行った加工品の例

取り組みの経緯

進プレは精密板金加工を主とする金属プレス加工業者である。顧客ニーズである「多品種」「小ロット」「低コスト」にあった製品を「短納期」かつ「高品質」で製造している。製造一貫に必要なブランク加工(金属板を必要な形状に打ち抜く加工)・ベンダー加工(部品を金型にセットしてコーナーやRに曲げる加工)・溶接加工などの全ての工程を自社で行うことで、製造ロットに左右されずに顧客からのコスト要求を実現させている。

当社では秋田精工株式会社の協力会社として航空機用ギャレー(厨房設備)などの精密板金加工を手掛けていた。航空機部品は多品種小ロットであるが、保有していた設備は加工の度にプログラム入力を行う必要があり、金型交換も原点合わせの上、試し曲げが必要になるなど多くの時間を費やしていた。加工時間の30～50%を占めるこの段取り時間の短縮が生産性向上の課題であった。

実施内容

段取り時間短縮の課題に対し、新型設備「プレスブレーキ(アマダ製)」の導入による生産性向上を計画した。新型設備はプログラム作成、メモリーからの呼び出しが速くなり、金型の装着も原点合わせが省略できるため、段取り時間が大幅に短縮された。さらに加圧構造方式の変化により、加工のバラツキが小さくなり安定した。

導入設備を航空機専用のベンダー機として使用できたため効率が上がったほか、金型についても航空機専用で使用したことで、キズのない製品を加工、納品することができ、高い評価を得ることができた。

平成24年当時の航空機部品の売上実績は、年間1千万円に満たない金額であったが、専用ベンダー機の導入により質の高い精密加工が可能となったことや航空機の増産を背景として、最盛期には月間5百万円弱程度まで売上を増加させることができた。

事業の成果

現在ギャレー関連の売上は最盛期に比べ6割程度に落ち着いたが、航空機産業は成長分野に位置づけられており、今後も安定的な受注が見込まれる。

齋藤社長は「曲げ加工は簡単に見えるかもしれないが、技術・経験のほか研究が必要で難しい加工。航空機分野で使われるアルミ素材はクラック(曲げた部分のヒビや端の割れ)が起きやすくデリケートな素材」と語る。

人材教育に力を入れる当社では、周囲のサポートによる社員教育を徹底する。「初めは誰もが素人。コミュニケーションの徹底で早く1人前になるよう育てている。これを疎かにすると技能は伝わらない。」としている。



航空機部品の例



レーザー加工機(ドイツ トルンプ社製)



タレットパンチプレス加工機

常に社員が自ら働き甲斐を見つけ、考え、動くことを大事にしています。当社では70歳の溶接のベテランが現役で働いていますが、何も言わなくても新人に技能を伝えてくれています。

社員を技術的な面だけでなく、人間的にも成長させることが経営者の仕事です。事業は人で成り立つと考えていますが、人を大事にして、一緒に頑張る意識を経営者が常に持たなければなりません。社員のチャレンジ精神は旺盛です。私も「失敗から学ぶことは財産になる。」と話しています。それが当社の社風にもなっています。



代表取締役
齋藤 幸安さん

今後の活動予定

当社では顧客の要望に逃げないで応えることを信条としており、常にどうやったらできるかという発想で仕事に取り組むよう社員に働きかけている。「社員にとっても会社にとっても、それが新たな挑戦になり、モチベーションの向上につながる。」と齋藤社長は語る。

また、製造現場に派遣職員は採用せず、正社員のみでの対応にこだわる。「ものづくりの現場は品質や補償問題が発生する。正社員と派遣との間で差別が生まれると品質にも影響を与える。」と話す。人材育成や品質に対する社長のこだわりが、当社の取引先からの高い評価、信頼につながっている。



株式会社進プレ

代表者	代表取締役 齋藤 幸安
創業	昭和52年9月
資本金	1,200万円
従業員数	56名
業種	金属プレス加工業
TEL	0184-43-3906
FAX	0184-43-5114
URL	www.shinwapress.co.jp